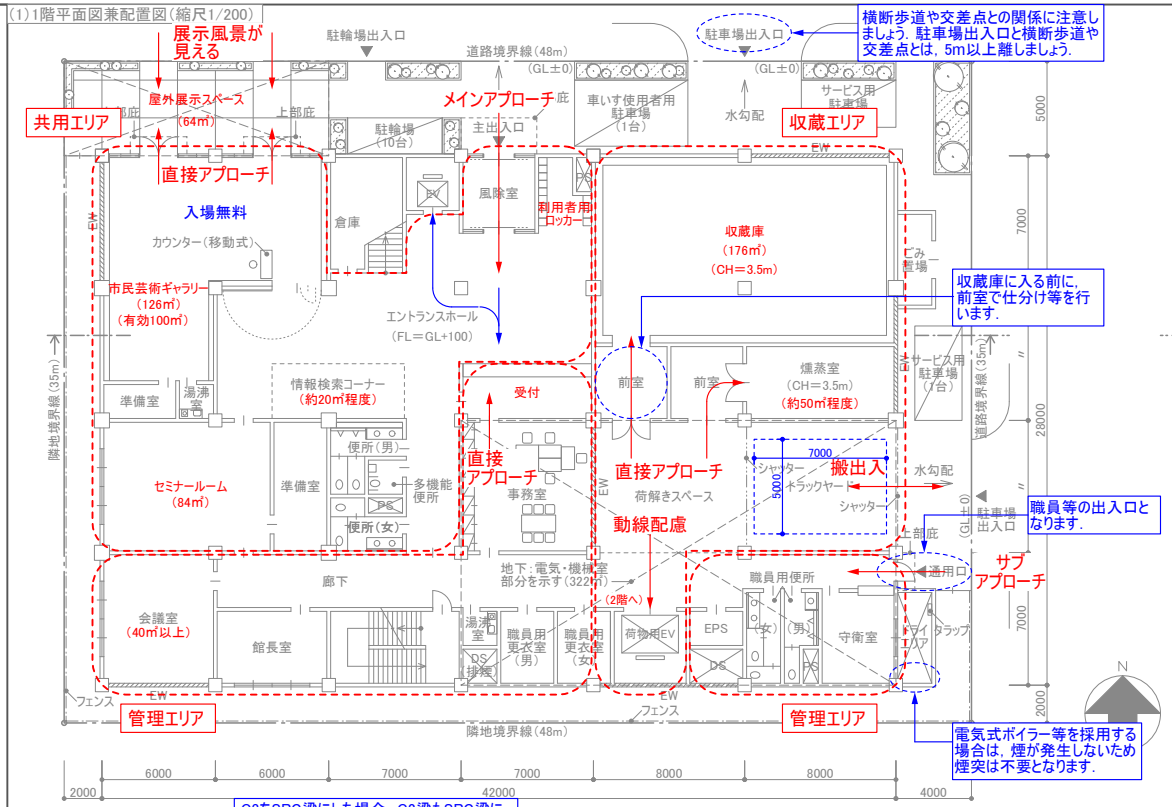
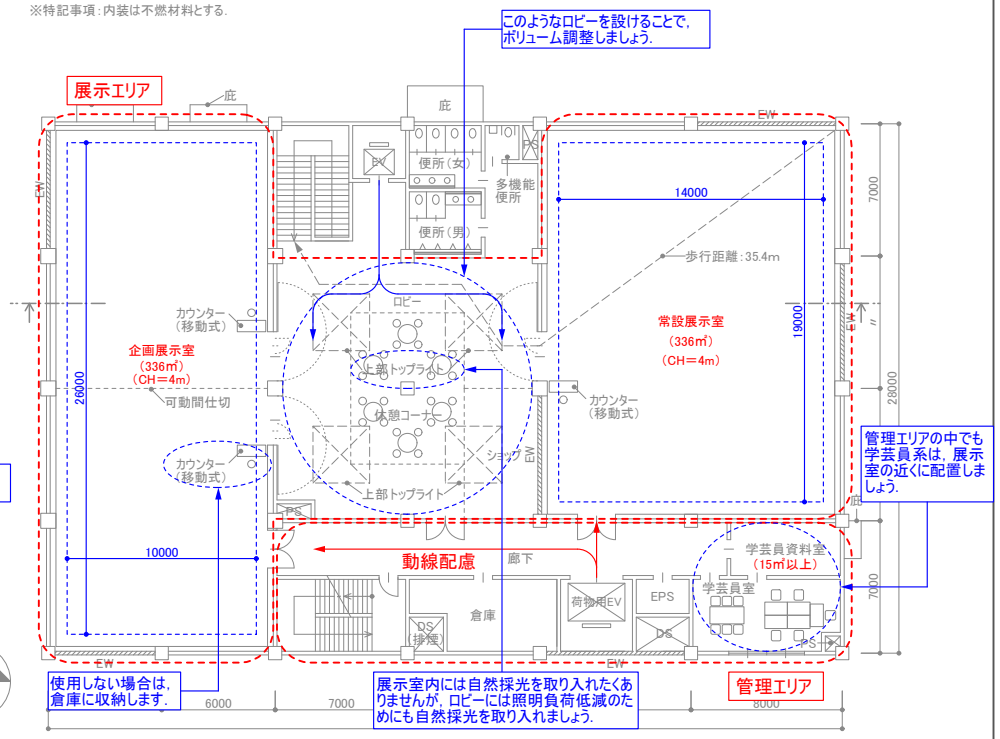
一級建築士　設計製図課題　答案用紙1

(1)1階平面図兼配置図(縮尺1/200)



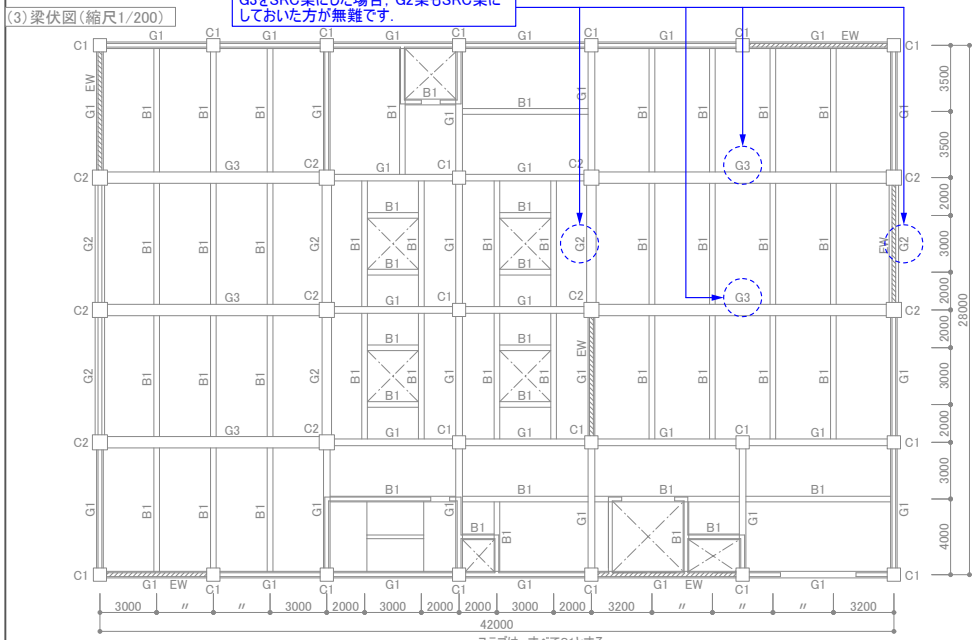
(2)2階平面図(縮尺1/200)

※特記事項：内装は不燃材料とする．



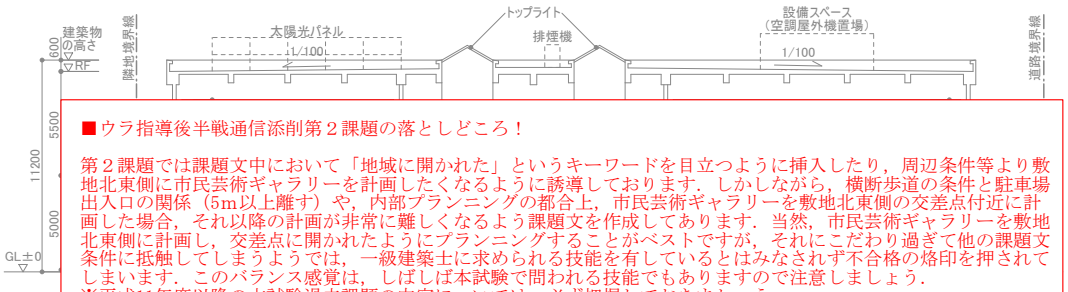
(3)梁伏図(縮尺1/200)

G3をSRC梁にした場合，G2梁もSRC梁にしておいた方が無難です．



スラブは，すべてS1とする．
特記なき限り，耐力壁以外の雑壁が取り付く柱際には，構造スリットを設ける．

(4)断面図(縮尺1/200)



■ウラ指導後半戦通信添削第２課題の落としどころ！

第２課題では課題文中において「地域に開かれた」というキーワードを目立つように挿入したり，周辺条件等より敷地北東側に市民芸術ギャラリーを計画したくなるように誘導しております．しかしながら，横断歩道の条件と駐車場出入口の関係（5m以上離す）や，内部プランニングの都合上，市民芸術ギャラリーを敷地北東側の交差点付近に計画した場合，それ以降の計画が非常に難しくなるよう課題文を作成してあります．当然，市民芸術ギャラリーを敷地北東側に計画し，交差点に開かれたようにプランニングすることがベストですが，それにこだわり過ぎて他の課題文条件に抵触してしまうようでは，一級建築士に求められる技能を有しているとはみなされず不合格の烙印を押されてしまいます．このバランス感覚は，しばしば本試験で問われる技能でもありますので注意しましょう．
※平成11年度以降の本試験過去課題の内容については，必ず把握しておきましょう．

ゾーニングとしては，エントランスホールを中心とした共用エリア（市民芸術ギャラリーはこのゾーンに含む），常設展示（有料），企画展示（有料）を中心とした展示エリア，収蔵庫，荷解きスペース，荷物用EVからなる収蔵エリア，その他の管理エリアの４種類があります．
このうち展示エリアについては，課題文に指定されてないロビーを設けることでボリューム調整します．また，管理エリアのうち，事務室や館長室系と，学芸員室や学芸員資料室は別系統であるということも覚えておきましょう．無理に別系統とすることはありませんが，別系統にできるのであれば，学芸員系（展示室の近くに配置）と，その他系にグルーピングしましょう．

床面積	1階	42×28	1,176.0 ㎡						
	合　計		2,352.0 ㎡						

									種別
									SRC
G1	大梁①	350×700	RC	G2	大梁②	500×700			SRC
B1	小梁①	300×600	RC	G3	大梁③	600×900			SRC
S1	スラブ①	t=150							